

「挑む人」に聞く!

第二回 ―会社は人をつくる場所―

雪和食品株式会社 代表取締役社長 伊原清良さん



代表取締役社長 伊原清良さん



(左上) 品質管理室 大槻陽子さん、
(右上) 工場長 萩原賢一さん
(右下) 取締役 伊原美加子さん

本コーナーでは、「こだわりを持って挑戦している人や会社」を訪ねて、お話をうかがいます。第一回目の雪和食品株式会社は、昭和二十一年、終戦直後で食糧事情が最も切迫していた時に松戸製パン株式会社として、主に学校給食パンの製造を目的に創業しました。その後も着々と業績を伸ばし、昭和五十二年には日本初の家庭用生パン粉を発売。平成二十一年、農林水産省よりパン粉のJAS認定工場として認定され、同年、千葉県の森田健作知事から「千葉のちから・中小企業表彰」を受賞しました。社員同士のコミュニケーションを大切にしながら、食の安全と安心に挑んでいる企業です。

―食の安全と安心のために、取り組まれていることはなんでしょう

社内では毎週一回、「5S推進委員会」という会をやっています。三〇分程度ですが社員五名程度で、普段働いていて気づいたことや、もつと改善できる点を自由に話し合ってもらいます。それを廊下のホワイトボードにすべて書き出して、部署を問わずスタッフ全員が目で見えて共有できるようにしているんです。たとえば以前、用途や工程によつて使う雑巾やタオルを色分けしたらどうかという意見が出たので、さっそく実践し好評でした。以来、雑巾やタオルは5S推進委員会のメンバーが洗濯機で洗うのが習慣になっています。会のメンバーは四か月に一度の交代制で社員全員が順番に担当し、議長も毎回交代制です。かれこれ二〇回以上続けていますが、大切なのは5Sを社員全員が自覚を持って考えて動くようになること。食品衛生は、一人ひとりが主役ですから。

―食品衛生に関して、社員の皆さんに心がけてほしいことはありますか

うちでは朝礼時に、「食品衛生体操」をたまにやっています。この振り付けのなかに、「自分の

指を口に入れて、その指を隣の人の口に入れるポーズ“というのがあるんです。あくまでもポーズですが、私は社員の皆さんにこの感覚を忘れてほしくない。他人の唾が自分の口に入る不快感、これこそ食品を作っている者が絶対に忘れてはならない原点だと気付かせることが大切と思います。

―社内コミュニケーションで、重視されていることは?

出出勤のときに、工場の方も必ず事務所の私の机の横を通つてもらっています。人間ですから顔をみれば、わかることは多いんです。毎日必ず顔を見て挨拶を交わしたり、時には雑



千葉県松戸市にある本社工場

談に花が咲いたり。些細なことかもしれませんが、こういう積みかさねは大きいと思います。もちろん季節ごとのイベントもまめに開催して、みんなで盛り上がります。私も欠かさず出席するんですよ! (笑)。

―今後、挑戦したいことをお聞かせください

まずは地域への貢献ですね。今、希望があれば外部の方にも工場見学していただいています。ぜひぶん前に地域の小学生が工場見学をしたあとに、「将来は雪和食品で働きたいです!」という感想文をいただき、感激しました。まだ小さなお子さんにとつて、うちの会社を見たことは大きな驚きだったのでしよう。次代を担うお子さんに良い影響を与えられるなら、今後またやっていきたいですね。

そしてもちろん、社員の幸せです。私は、「何をつくる会社ですか」と聞かれたら、「人をつくらします。ついでにパン粉もつくりまします」と答えています。先人も言っておられることですが、今後この姿勢を変えるつもりはありません。社員の成長と幸せをつくるのが私の仕事であり、それが会社と社会の財産になるのです。